



▲復元工事中の東京駅



▲復元工事中の三菱一号館

■ NEWS 02

赤煉瓦ネットワーク東京大会

■ 講演会

復元工事中の東京駅を間近に見下ろす丸ビル8階の会議室で50名に近い聴講者と共に約2時間、鉄道総合研究所の小野田滋氏の「煉瓦と鉄道」、(株)三菱地所設計の清家正樹氏と(株)竹中工務店の田中愛氏の「三菱1号館の復元」を聴講しました。特に「三菱1号館の復元」はレンガそのものの製造および組積までも明治を忠実に復元するという、半田赤レンガ建物でも「夢」として考えていたことが実現されつつあるという意味で非常に興味あるものでした。公式発表前ということでハンズアウトはありませんでしたが興味あるスライド画像が多数紹介され、現在の日本からはレンガ組積職人が集まらないのではないかと考えていたことが否定されたことだけでも有益でした。(桑田記)

■ 自主見学会 牛久シャトーカミヤ ～葡萄酒醸造場～

私たち3名(馬場理事長、新海理事、私・小林)は、講演会の間、茨城県牛久市にある、牛久シャトーカミヤを見学してきました。ここは、「日本のワイン王」とも呼ばれた神谷



▲本館を背景に記念写真



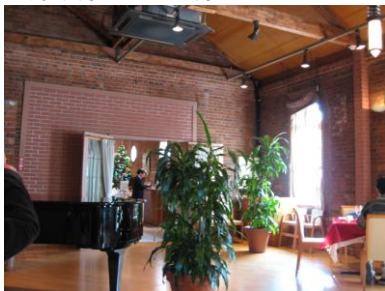
▲貯蔵樽(ビール樽に似ている?)

兵衛により、明治36年、神谷葡萄園に建てられた煉瓦造の「牛久醸造所(シャトーカミヤ)」です。旧醸造場時代の建物は3棟あります。改変は、内部、開口部の一部に止められており、建設当初の姿をよく伝えていますが(重要文化財指定)。現在は食のレジャー施設として、合同酒精(株)が運営管理しており、年間10万人の観光客が訪れています。内容は歴史と製造展示資料室、ワイン販売、レストラン、日本料理、結婚式場、バーベキュー、ビアホール、パン工房があり、暖かみがあるレンガとゆったりとした空間の中でクラシック音楽を聞きながらフレンチ料理とワインが楽しめます。今後の半田赤レンガ建物の活用検討に非常に参考になった事例でした。

(小林記)



▲歴史とものづくり展示資料室



▲フレンチレストラン



▲園内奥に結婚式場



▲懇親会

■ 懇親会

我々、別動隊3人(馬場理事長、小林理事、私・新海)はシャトーカミヤ等の見学後、約30分前に懇親会場に到着しました。会場で、桑田さん、竹内正さんと合流し、今回の視察の報告をしました。例年の全国大会に比べると、会場も小さく参加人数も約60名程と、若干寂しい感がありましたが、愛知県からは、

倶楽部から5人、赤煉瓦工業組合から5人と倶楽部の結束をアピール出来たのではないのでしょうか。パーティの雰囲気は、参加者の自己紹介、活動報告はもちろんの事、某大手ゼネコンと某組合とのジャブの応酬や、急に始まる具体的な商談、殆ど強制に近いような強引なネットワークへの勧誘等、冗談とも、本気とも取れないような会話で会場は盛り上がり、最後には次回の大会の成功を祈り、ネットワークの旗の前で記念撮影。非常に充実した大会でした。(新海記)

■NEWS 03

秋の一般公開

「童話の村秋まつり」と銘打って秋の彼岸花にあわせたイベントが南吉記念館一帯を中心に開催されました。

我が赤煉瓦倶楽部は、9/20～10/13の土日に赤レンガ建物を公開、カブトビールも用意して来場者をお迎えしました。期間中、JRハイキングが9月20日に、名鉄ハイキングが9月23日に開催され、見頃となった彼岸花目当てのハイカーを中心に、赤レンガ建物は大勢の見学者で賑い、2日間で5,300名と夏の特別公開を上回る結果となりました。カブトビールも完売、新しく用意したビネガードリンクも好調な売れ行きとなり、彼岸花・天候・連携イベントが功を奏した秋の公開事業でした。(宮原記)

■ NEWS 04

総会報告

「本格活用に向け、 更なるステップアップへ！」

昨年10周年の節目を迎えた赤煉瓦倶楽部・半田は、多くの方々より期待と支持を受け、建物の本格活用を視野に入れた積極的な活動や勉強会が行われました。これまでの活動で、半田赤レンガ建物の重要性和半田のシンボルとしての格付けは十分統一されましたが、この度の総会を経て、建物の本格的な活用に向けた活用目的や方法、耐震構造を含めた建築費用などをより具体化し、これまでの「漠然とした夢の構想」から「実現可能な本格活用」へとステップアップすることを確認しました。

(平岡記)

■ NEWS 05

半田赤レンガ建物110歳 誕生会

半田赤レンガ建物の誕生を祝し、11月9日(日)午後3時より赤レンガ建物内にて「赤レンガ建物110歳お誕生会」が開催されました。第一部では「赤レンガ建物の歴史と変遷」と題し、収集した資料や写真を映像にまとめ説明。第二部では建物の本格活用に向け戦略商品である「ドイツパン」、「酢ドリンク」を発表、ビールカステラの特製ケーキを囲みバースデーソングを合唱した後、カブトビールで乾杯、試食を行いました。(榊原記)



■赤煉瓦倶楽部半田規約（抄）

[会の名称]
赤煉瓦倶楽部・半田

- [目的]
- ・ 貴重な旧カプトビール赤レンガ建物及び明治の旺盛な起業家精神を後世に引き継ぐこと
 - ・ 山車、蔵と並ぶ半田のシンボルとして、赤レンガ建物を生かした街づくりを調査・研究すること
 - ・ 赤レンガ建物に関係するネットワークと連携し、赤レンガ建物を生かした街づくりを支援すること
 - ・ その他本会の目的を達するために必要な活動

[会費]

(1) 入会金 1,000円

(2) 年会費

- ①個人会員 1,000円
- ②法人・団体会員 10,000円 (団体は10名以上)
- ③ボランティア会員 無料

[活動年度]

- ・ 毎年7月1日～翌年6月30日
- ・ 総会は、毎年1回開催する

[運営]

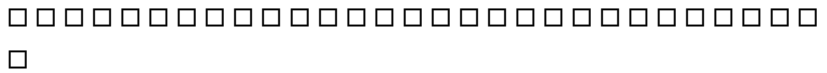
- ・ 当会の運営は理事会で行う。運営にあたり次の役員を置く。
 - (1) 理事 5人以上
 - (2) 監事 2人以上
- ・ 理事のうち、一人を理事長、2人を副理事長とする。

■編集後記

新年あけましておめでとうございます。昨年、ついにイルミネーションを行いました。青い光にほんやりと赤レンガが浮かび上がり、まるで湖に浮かんでいるようなイメージになっています。その感動は一面記事をご覧ください。好評につき、2月21

■広告募集延長して実施しますので、ぜひお越し下さい。(Y)

当倶楽部のホームページや機関紙に広告を掲載していただける企業や団体を募集しています。
1枠 年間5,000円
集まったお金はホームページの管理費や機関紙の発行費用に充てます。



■赤レンガ建物の新聞発表あれこれ

赤レンガ建物利活用に向けて 三ヶ年計画 予算計上！

昨年、一番驚いた赤レンガ関係の新聞報道は、11月8日の中日新聞の朝刊の「赤レンガ建物を耐震化する」という大きな見出しでした。昨年の新春合宿では、建物を常時公開し本格活用するためには、耐震等の整備を進めたいと倶楽部員全員が願っていました。新聞記事によれば、半田市は3ヶ年計画に建物を耐震化する工事設計の他、マーケティングなどの基本計画も同時に盛り込まれたそうです。工事着工は2012年以降になりそうです。

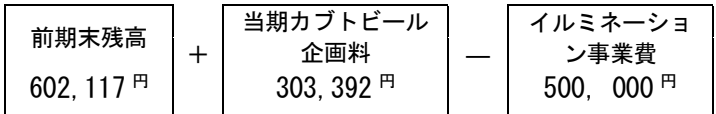
これ以外にも、赤レンガ建物は話題性が多く、ひなまつり建物公開、建物110歳誕生を祝うパーティー、建物イルミネーション事業などが新聞に載り、半田市内外の方にも赤レンガ建物を知っていただく良い機会となりました。近い将来倶楽部員の夢が叶うことでしょう。(小林記)

■赤レンガ基金報告

****基金の口座****
 知多信用金庫 本店営業部
 普通預金
 店番 021 口座番号 0497825
 アカレンガクラブハンダ



****平成20年12月31日現在の基金積立金****
 基金積立額 405,509円
 (内訳)



全愛知県赤煉瓦工業協同組合
 〒447-0863 愛知県碧南市新川町3丁目85番地
 TEL・FAX (0566) 41-1276
 E-Mail : office@akarenga-aichi.or.jp
 WWW : http://www.akarenga-aichi.or.jp

リサイクルガラス
ガラススタジオ青山

吹きガラス、これほ玉漱室
 半田市青川町23-10 TEL.0564-24-8416